

## 【教育振興支援助成報告】

## 服飾造形学科学生の「和洋ブランド」運営プロジェクト

## 令和2(2020)～4(2022)年度和洋女子大学教育振興支援助成報告

森本美紀、織田奈緒子、下之角千草、ジョンソユン  
山本高美、桑原里実、水野一枝、伊藤瑞香

“WAYO BRAND” Management Project  
by students of Fashion and Arts Departments

MORIMOTO Miki, ORITA Naoko, GENOSUMI Chigusa, SEOYUN Jun,  
YAMAMOTO Takami, KUWABARA Satomi, MIZUNO Kazue, ITO Mizuka

## 要旨

本稿では、2020～2022年度に和洋女子大学教育振興支援助成を受け、服飾造形学科の特性を活かした新たな「和洋ブランド」プロジェクトの活動とその取り組みを通して習得した成果を報告する。教員の指導の下で学生が「和洋ブランド」を立ち上げ、地域企業と提携しながら、顧客のニーズ、社会環境や地球に配慮したモノづくりとサステナブルなブランディングをコンセプトとして掲げ、商品・サービスの企画、制作、販売、広報活動、ECサイトの設計と運営、イベントの企画・運営まで取り組んだ。初年度は、医療従事者に向けたユニフォームを企画・制作した。イラスト画を描き、そのイラスト画に基づき、提携企業と打ち合わせを重ね、デザイン、素材、色を決定し、トワルを組み、型紙を作成して、ファーストサンプルの裁断、縫製を行った。2年目は、地元企業である千葉テレビの朝の情報番組「モーニングこんぱす」の出演者へ、朝の番組に相応しい衣装のデザインを出し合い、サステナビリティを考慮しながら生地を選び、アイテムごとにチームに分かれジャケット2型、パンツ1型、シャツ1型を制作し、提供した。最終年度は、2年間で培った企画力や情報発信力を活かして、アップサイクルに基づいたファッションショーの企画・運営、和洋ブランドの商品企画、Eコマースの構築、チャームとバックの制作、と4チームに分かれ異なる取り組みを行った。これらの取り組みにより、スケジュール管理能力、コミュニケーション能力、結束力、役割遂行能力、プレゼンテーション能力の向上に成果を確認することができた。

キーワード：サステナブルファッション (sustainable fashion)、商品企画 (merchandising)、  
地域・企業連携 (community and company collaboration)、アップサイクル (upcycle)

## 1. はじめに

ファッションに関わる消費が停滞している現在、これからの服飾を含めたファッションビジネスにおいては、顧客のニーズだけではなく、社会環境や地球に配慮したモノづくりや持続可能なブランディングの構築が重要になってきている。そのため、服飾造形学科の学生に、授業で身につけた情報収集力、分析力、企画力などの能力を発揮できる実践の場の必要性を実感した。

そこで、学生が教員とともに、サステナブルを意識しながら、顧客のニーズ、社会環境や地球に配慮したモノづくりをコンセプトとして掲げ、商品・サービスの企画、制作、販売、広報活動、ECサイト設計と運営、イベント企画まで取り組むことで、実践力を身につけ、地域企業、地域住民の方々と提携しながら、和洋女子大学ならではの「和洋ブランド」を提供することで、コミュニケーション能力、結束力、役割遂行能力を身につけ、高めることを目的として「和洋ブランド」運営プロジェクトを立ち上げた。その内容について、3年間に実体験した内容を総括し、服飾造形学科の学生の学びの様子を報告する。

## 2. 取り組み内容と成果

3年間で取り組んだ内容とその取り組みから得た成果を表1に示す。その取り組みの方向と実行計画を決定するために3年間で45回に亘るミーティングを重ねた。ミーティングの議事録は教員の指導の下、持ち回りで学生が作成し、毎回の決定事項と課題、今後の予定を記載した。ミーティングに参加できなかった学生に対しては、manaba course上で情報を共有した。初回ミーティングの議事録を写真1に示し、3年間で取り組んだチーム編成と学生数、主な活動日を表2に示す。

表1 3年間の取り組み内容と成果

	内容	成果
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療従事者に向けたユニフォームの商品企画、サンプル制作</li> <li>9月～12月：デザインごとにチームに分かれ、デザイン構築、生地選び、カラー選定、トワール制作、報告会。</li> <li>1月～3月：型紙作成、生地、付属手配、縫製、お披露目会。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール管理能力</li> <li>制作における役割遂行能力</li> <li>サステナブルファッションに対する意識力</li> </ul>
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>MC(千葉テレビ出演)にジャケット2型、パンツ1型、ブラウス1型を商品企画し、サンプル制作</li> <li>7月～12月：アイテムごとにチームに分かれ、デザイン構築、生地選び、トワール制作、型紙作成、裁断、芯地貼り、縫製</li> <li>11月末：千葉テレビのスタッフ、番組出演者が来校し、今回の取り組みについて取材を受け、放映</li> <li>12月末：番組の生放送に出演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働先と取り組みことで、コミュニケーション能力</li> <li>チームにおける結束力</li> <li>TV出演によりプレゼンテーション能力</li> </ul>
2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA千葉女性部のファッションショー企画・運営</li> <li>和洋ブランドの商品企画、サンプル生産依頼</li> <li>MC(千葉テレビ出演)にチャーム制作・バッグ制作し、TV出演</li> <li>Eコマース設計・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブルファッションに向けての行動力</li> </ul>

議事録		作成日：2020年11月6日
会議名	第1回 和洋ブランドプロジェクト ミーティング	
日時	2020年11月6日(水)	
場所	和洋女子大学 第2講義室	
出席者	顧問：結木美奈、菅井、堀田、浜本、渡辺、森 教員：山本先生、堀田先生、島崎	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジェンダについて(森先生による)</li> <li>学生主体の方向性について</li> <li>テーマ：医療従事者用ユニフォームをつくる</li> <li>堀田先生、森崎先生、山本先生がサポートに入る。</li> <li>参加者自己紹介</li> <li>アジェンダについて</li> <li>アジェンダの構成(堀田先生、島崎先生発表、意見交換)</li> <li>アジェンダの提案者は、そのアジェンダに理由や興味を説明した。</li> <li>多数決により決定した。</li> <li>決定について</li> <li>アジェンダの構成(堀田先生、島崎先生発表、意見交換)</li> <li>アジェンダの提案者は、そのアジェンダに理由や興味を説明した。</li> <li>多数決により決定した。</li> <li>議事録について</li> <li>ミーティングの目的を議事録に記載することにした。</li> <li>学生持ち回りで担当する。</li> <li>依頼について</li> <li>活動内容を大学HPなどに載せたい事項とする。</li> <li>学生持ち回りで担当、教員のサポート、発表する。(一可能が大学で確認)</li> </ul>	
決定事項/課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジェンダについて</li> <li>3名決定した。(アジェンダのデザイン、バッグデザイン(各々のアジェンダ)、刺繍が入ったアジェンダ)</li> <li>堀田先生にアジェンダの修正を依頼し、一週間以内のアジェンダを提出する。</li> <li>決定について</li> <li>堀田先生とWAVYのデザインを採用し、色合いの調整をする。</li> <li>依頼について</li> <li>アジェンダの構成(堀田先生、島崎先生発表、意見交換)</li> <li>アジェンダの提案者は、そのアジェンダに理由や興味を説明した。</li> <li>多数決により決定した。</li> <li>決定について</li> <li>アジェンダの構成(堀田先生、島崎先生発表、意見交換)</li> <li>アジェンダの提案者は、そのアジェンダに理由や興味を説明した。</li> <li>多数決により決定した。</li> <li>決定について</li> <li>アジェンダの構成(堀田先生、島崎先生発表、意見交換)</li> <li>アジェンダの提案者は、そのアジェンダに理由や興味を説明した。</li> <li>多数決により決定した。</li> </ul>	
今後の予定	11/11(水)最終ミーティング 11/18(水)最終ミーティング	

表2 取り組んだチーム編成と学生数、主な活動日

年度	チーム名	学生数	主な活動日
2020年度	MDチーム	5名	水曜昼休み 冬休み 春休み
	デザインチーム	4名	
	パターン/縫製チーム	4名	
	広報チーム	4名	
2021年度	ジャケットA&シャツ企画/制作チーム	7名	月曜4.5限
	ジャケットB&パンツ企画/制作チーム	6名	水曜1.2.3限
	広報、TV出演チーム	5名	夏休み
2022年度	JAファッションショーチーム	5名	月曜2限
	商品企画チーム	5名	木曜1.3限
	Eコマースチーム	4名	火曜4限
	JK型チャーム&バッグチーム	6名	金曜4限

写真1 第1回ミーティング議事録

## 2-1. 1年目の取り組み内容と成果

初年度はコロナ禍の影響で、リサイクル活動を控え、社会環境に配慮し、医療従事者に向けてのユニフォームの企画・制作を中心とした「和洋ブランドプロジェクト」の学生の募集を行うも、4月時点では4名の応募のみであった。そこで、前期の授業内でSDGsと関連づけたプロジェクト活動の紹介と募集を積極的に行うことで、後期開始前には17名の募集があり、11月より本格的な活動に取り組むことができた。

毎週水曜日に定例ミーティングを開催し、4ヶ月で全15回分の議事録を作成した。定例ミーティングでは、ブランドのコンセプトについて意見交換をし、チーム編成やスケジュール管理、決定事項や課題について確認しあった。また、定例ミーティング以外に、冬休み、春休みを利用し、各チームに分かれ、3～6日間の制作活動を実施した。

具体的な取り組み内容は、11月中に、募集した「和洋ブランドロゴ」の中から議論を重ね、オリジナルロゴを決定した。和洋らしさをイメージした花であるアネモネ、スズラン、チューリップの3デザインに絞り込み、ファーストサンプル、セカンドサンプルの素材、色の決定を行った。12月に入り、トワルの作成と検討、修正を確認し、ファーストサンプルの裁断と縫製を進めた。並行して、広報チームが休眠中サイトのデザインを構築し、春休み中に、活動パンフレットのデザイン構成と制作を行った。

さらに、定期的に活動の様子を学科インフォメーションに掲載した。取り組み内容に関連して以下の成果をあげた。

- ①学内で活動報告会を行うことで、他学科にも服飾造形学科の取り組みを知ってもらえた。
- ②活動レポートのパンフレットを2000部作成、配布することで、受験生に和洋ブランドを認知させた。「2020年度和洋プロジェクト活動レポート」のパンフレットを写真2に示す。



写真2 「2020年度和洋プロジェクト活動レポート」

## 2-2. 2年目の取り組み内容と成果

2年目は、前年度中にサンプルを完成させた医療従事者用ユニフォームの広告、販売を行った。量産化に向け、縫製を協力して頂く企業とZoomミーティングを行い、サンプルのデザイン、仕様を改良した。それと同時に、ホームページで活動の様子を発信しながら、販売カタログのデザイン発案・作成を行い、地元医療関係者にカタログを送った。医療従事者向けのユニフォームの販売カタログを写真3に示す。





写真3 「医療従事者向けのユニフォームの販売カタログ」

さらに、地元企業である千葉テレビの朝の情報番組の出演者に衣装を提供した。番組コンセプトと和洋ブランドのコンセプトを擦り合わせ、16のデザイン案を提案し、話し合いの結果、4案（ジャケット2型、パンツ1型、ブラウス1型）に絞り込んだ。朝の番組に相応しい衣装のデザインを基にサステナビリティを考慮し、素材を選定した。7月に、4型のトワルを組み、夏休みに入り、型紙を作成し、裁断、芯地を貼り、縫製に取り掛かった。11月末には、千葉テレビのスタッフ、番組出演者が来校し、今回の取り組みについて取材を受け、12月末には番組に出演した。制作に関しては、チームに分かれ、1週間に5時限を活動に充てた。昨年度に引き続き、定期的に学科インフォメーションに取り組みを掲載した。取り組み内容に関連して以下の成果をあげた。

- ①販売カタログを作成、配布することで、医療関係者に「和洋ブランド」を認知させた。
  - ②朝の番組に相応しい衣装4点を着用した出演者に関するSNSの記事で反響を得ることができた。
  - ③地元テレビ局の情報番組に出演することで、地域視聴者に服飾造形学科の取り組みを認知させた。
- 「2021年度和洋プロジェクト活動レポート」のパンフレットを写真4に示す。



写真4 「2021年度和洋プロジェクト活動レポート」

### 2-3. 3年目の取り組み内容と成果

最終年度は3年間の集大成として、2年間で培った商品企画力や情報発信力を活かして、リーダーを決め4チームに分かれ、各チームで異なる取り組みを行った。週1回定期的に集まり、各チームで以下の内容で取り組んだ。

①ファッションショー企画運営チーム:サステナブルな取り組みとして、JA千葉とのコラボレーションで、JA千葉女性部会員様の箆笥在庫を学生達がアップサイクル（リサイクルとは異なり、今までの服に価値を加えること）して商品として蘇らせ、2022年9月30日に開催された「JA千葉女性部協議会創立70周年記念式典」で企画・運営したファッションショーを発表した。その模様は、千葉テレビ「newsちば」で放送された。制作活動は定期活動に加え、夏休みの10日間を費やした。そのファッションショーの様子とアップサイクルした衣装を写真5に示す。



写真5 JAファッションショーの様子とアップサイクルした衣装

②和洋ブランド商品企画チーム:「和洋ブランド」として、ブランドコンセプトを構築し、それに基づき商品デザインの構築、素材の選定、色決めをし、ファーストサンプル制作を外注パタンナーに依頼した。サンプルの制作に向け、トワルチェック、トワルの修正、仕様書の確認、サンプルチェック、サンプル修正などアパレル企業の商品企画室で行う一連の活動を体験した。構築したブランドコンセプトと衣装を写真6に示す。

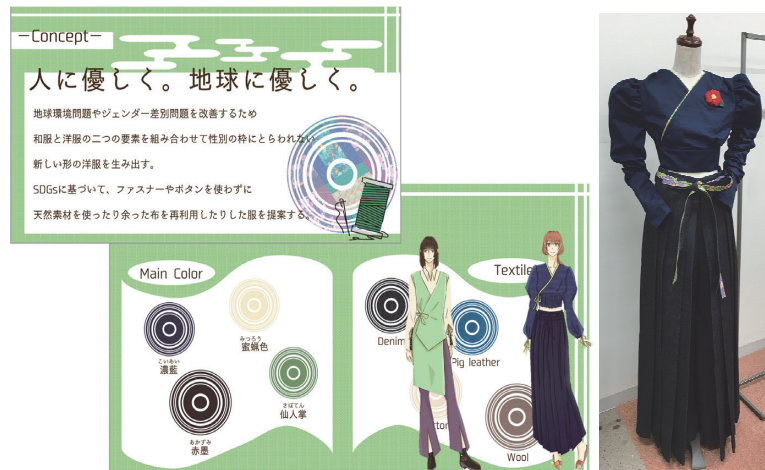


写真6 和洋ブランド商品企画チームのブランドコンセプトと衣装



- ③Eコマース設計・運営チーム：2020年度に取り組んだ医療従事者用のユニフォームをネットショップ STORESで販売した。STORESを開設するにあたり、ネットショップ内でのロゴのデザイン、カラー、ブランド説明、商品説明などを議論し合い、構築した。その様子は、千葉テレビのウェブサイト「チバテレ+」で紹介された。
- ④JK型チャーム制作&バッグ制作チーム：昨年取り組んだ千葉テレビの番組「モーニングこんぱす」MCに提供した衣装の生地であるスエードの残布を利用し、学生達のオリジナルデザインでチャームやバッグを制作した。チャームについては里見祭で販売し、多くの来場者に購入して頂いた。Eコマース同様、千葉テレビのウェブサイト「チバテレ+」で紹介された。さらに、バッグはペンケースとともに、昨年に引き続き、有志の学生2名が番組に出演しMCにプレゼントした。「チバテレ+」の記事と残布を利用した小物を写真7に示す。



写真7 「チバテレ+」の記事と残布を利用した小物

最終年度も定期的に学科インフォメーションに取り組みを掲載した。取り組み内容に関連して以下の成果をあげた。

- ①ファッションショーのメイク、着付け、音響、照明など全て学生が担当し、その模様が千葉テレビ「news ちば」で放送されることで、服飾造形学科の技術や能力を認知できた。
- ②里見祭にて商品企画チームの制作したブラウスとスカートを和洋ブランドショップ内に展示し、校内の他学科の学生や来校者にブランド名を認知できた。
- ③里見祭で開設したSTORESに直接つながるQRコードを和洋ブランドショップ内に掲示し、来校者に直接ネットショッピングを体験してもらえた。
- ④千葉テレビの番組「モーニングこんぱす」に学生が出演し、TikTokやX（旧Twitter）でその日の様子が配信されることで、若い世代にも服飾造形学科の取り組みを認知できた。

### 3. 総括と今後に向けて

3年間のプロジェクト活動により、アパレル業界における情報を収集し、企画・生産・販売・広報宣伝という一連の流れを分断することなく経験することができた。特に、定例ミーティングでは、毎回様々な

意見を出し合い、物事を決めていくプロセスやスケジュール管理の重要性を理解し、チームを組んで取り組むことで、上級生であるリーダーは各メンバーとのコミュニケーションを密に取る能力とメンバーをまとめる力が身につく、メンバーは自分の役割を全うするという責任感が身についた。プロジェクト活動についての定例ミーティングは3年間で45回を重ね、全ての学生が持ち回りでミーティングの議事録を記述しまとめた。その議事録集は、卒業生が就職活動に役立てている。

学年の枠を超えたコミュニケーションを行うことで、上級生は今まで習得した知識や技術を企画、制作に活かし、下級生の疑問や問題に対応することができた。下級生は、取り扱うアイテムの仕様や縫製について未修部分が多いにもかかわらず、教員や先輩からの細部にわたる丁寧な指導により先取りで習得することができた。また、授業で扱うことのないピグレザーを使用することで新たな縫製技術を学修し、ピグレザーを取り扱っている皮革問屋から素材の特徴や取扱について詳細な説明を受けることで、素材という観点から環境を配慮することが習慣となった。協働企業がどのようなSDGsに取り組んでいるかという意識が芽生え、企業理念についての重要性も修得できた。プロジェクト内容、協働企業、SDGsとの関連を表3に示す。

表3 プロジェクト内容、協働企業、SDGsとの関連

プロジェクトの内容	協働企業	SDGsとの関連
ターゲット設定	医療法人スリール	12 持続可能な消費と生産、13 気候変動への対応、14 海洋資源の持続可能な利用、15 陸域生態系の持続可能な利用
素材選定	マスタ株式会社、中村貿易株式会社	1 人やコミュニティの繁栄、3 健全な生活と福祉、10 人やコミュニティの繁栄、12 持続可能な消費と生産
デザイン構築	スタイリストMIKAKO	9 産業、イノベーションとインフラ、12 持続可能な消費と生産、17 持続可能なパートナーシップ
サンプル作成・量産	エフリード株式会社	12 持続可能な消費と生産
宣伝広報	千葉テレビ株式会社	11 持続可能な都市とコミュニティ、12 持続可能な消費と生産、17 持続可能なパートナーシップ
イベント運営	JA千葉女性部	3 健全な生活と福祉、11 持続可能な都市とコミュニティ、12 持続可能な消費と生産、17 持続可能なパートナーシップ

今後に向けて、2023年度には、3年間でのプロジェクト活動で培った、スケジュール管理能力、役割遂行能力、サステナブルファッションに対する意識力、協働先と取り組むことでのコミュニケーション能力、チームにおける結束力、TV出演によるプレゼンテーション能力、サステナブルファッションに向けての行動力を活かし、3Dモデリングソフト「CLO」による新たなデザイン技術を身につけることを目的とした「Wayo Fashion Future Lab」が開設した。このプロジェクトに参加した学生が主体となって、新たな活動を始めている。

## 謝辞

このプロジェクトは新型コロナウイルス感染拡大とともに始まり、多くの活動が制限されましたが、そのような状況下でも学生に貴重な体験をさせることができました。これも服飾造形学科木村助手、玉利助手をはじめとする学内関係者や、取り組み企業である医療法人スリール様、マスタ株式会社様、中村貿易株式会社様、スタイリストMIKAKO様、エフリード株式会社様、千葉テレビ株式会社様、JA千葉女性部様のご支援やご協力のおかげであると深く感謝を申し上げます。

森本 美紀（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 准教授）  
織田奈緒子（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 助教）  
下之角千草（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 助教）  
ジョンソユン（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 前助教）  
山本 高美（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 准教授）  
桑原 里実（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 助教）  
水野 一枝（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 准教授）  
伊藤 瑞香（和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科 准教授）

（2023年11月14日受理）